

野津田公園 ばら広場存続 求める市民請願

不採択

**日本共産党
賛成討論**



町田市民の憩いスポット野津田公園ばら広場

町田市議会第3回定例会が、9月28日から10月30日まで行われました。2018年度一般会計特別会計決算や19年度一般会計補正予算が審査されました。日本共産党は、市民不在の大型開発と「行革」を改め、暮らし第一の市政を求めて論戦し、反対しました。

ばら広場請願署名 5358筆

6月議会・9月議会に野津田公園のばら広場をテニスコートにし、ばら広場を移転する計画に対して、市民の方から「野津田公園バラ広場の現在地での存続拡充を求める請願」、ばら会の方から「野津田公園ばら広場の移転計画の再検討を求める請願」が出されました。署名が合計5358筆提出され、建設常任委員会で審議されました。日本共産党市議団は、委員会での質疑、本会議で賛成討論を行

いました。しかし、日本共産党市議団のみの賛成少数で不採択となりました。

計画ありきで市民の声に 背を向ける町田市

日本共産党市議団は、請願審査や賛成討論を通して、市の姿勢の問題点を明らかにしました。ばら広場移転は、2014年に「町田市第二次野津田公園整備基本計画」において現ばら広場を移転してテニスコートの整備計画が提案されたことにあります。翌年、2015年3月議会に「野津田公園のばら広場を縮小しな

いで存続を求める請願」が出されましたが、ばら会と市で約8000㎡あるばら広場を4000㎡の移転先を確保することなどで合意し、とり下げられています。その後、移転案がいくつも提示され、昨年の市議会では移転先がテニスコート付近だという行政報告がされていたにも関わらず、今年2月になって、4000㎡ではなく、わんぱく広場と道路脇のり面を合わせた約2800㎡の敷地への移転案がばら会に説明されたことも明らかとなりました。町田市は「設計によって若

干変わる」約4000㎡という約束」と説明してきたと答弁。計画ありきで、市民との約束を果たさそうとしない市の姿勢は問題です。

市民の声に応じて 丁寧な合意形成を

ばら広場は、2001年から19年間もの間、ボランティアのばら会の方々と町田市が協働で、市民や市外の方々にバラの魅力を伝え、野津田公園の憩いの場であり野津田公園の魅力を高める場となっています。町田市は、年内にバラの植

東京都に保育給食費への財政支援を 求める意見書

全会一致で可決

10月スタートの「幼児教育・保育無償化」は、これまで保育料に含まれていた「給食費」が保護者負担となり、町田市では年収360万円未満世帯と第3子以降が免除されるほかは、主食・副食合わせ6200円（公立）が新たに保護者負担となりました。23区では、区費負担で給食費を無償にするところが18区ありますが、多摩26市は武蔵野市と小金井市の2市だけと、ここでも多摩格差は歴然です。日本共産党は、この間、保育給食費が実費徴収にならないよう市の対応をもとめてきました。

東京のどこに住んでいても格差がないようにとの思いから、9月議会では「東京都に対して幼児教育保育無償化に伴う主食費・副食費の保護者負担軽減のための財政支援を求める意見書」を、文教社

え替えの準備を進めると答弁しています。が、住民の声や利用者の声、何より長年市と協働で行ってきたばら会のボランティアの方々への敬意と合意形成が不十分であると言わざるを得ません。日本共産党市議団は、計画ありきでなく、丁寧な話し合いと合意形成を今後も求めて行きます。



都内の保育給食費の保護者負担

実施自治体	保護者負担分	負担内訳
板橋、目黒など18区 武蔵野市、小金井市	0円	主食+副食とも自治体負担
中央、港、台東、世田谷、 足立の5区と22市	4500円 ~6000円	副食費のみ保護者負担 主食+副食とも保護者負担
立川市	1000円	主食費と副食費のうち 3500円を市費負担
町田市(公立)	6200円	主食+副食とも保護者負担

※世田谷区は所得760万円未満免除、中央区は所得494万円未満免除

会常任委員会提出議案として最終日に上程、本会議でも全会一致で可決しました。